

## お品書き



森の民話茶屋お膳  
1,300 円

手間暇惜しまず作られた  
ふるさとの味が詰まったお膳。  
美味しくてどこか懐かしい  
心と身体にうれしい伝統食です。



抹茶・コーヒー  
300 円

静かな大玉村の森の中、  
自然の音や色に  
癒されながら  
ホッとひとやすみ。



民話  
お代はお客様の笑顔です。

泣いて笑って・・・  
良いねえ民話  
語り部があなたに  
届けます。

## 店舗情報



OPEN : 5 月 24 日(土)～ 11 月 16 日(日)  
土・日 10:30 ～ 14:30  
(平日 : 12 名以上の団体様のみ  
利用可。ご相談ください)

お食事の数には限りがあります。  
事前予約がおすすめです。

☎ 土・日 0243-24-7410  
(森の民話茶屋)  
☎ 平日 0243-24-8096  
(大玉村役場産業課)

〒969-1302  
福島県安達郡大玉村  
玉井字前ヶ岳国有林 7 林班

## お知らせ

今年 5 月 24 日(土)に開催した「森の民話茶屋オープン式」の抽選会にて、森の民話茶屋  
お食事券ご当選の皆さまへ。期限は今年 11 月 16 日(日)までですでお気を付け下さい。



森の民話茶屋  
Instagram を見る

MORINO\_CHAYA\_OTAMA



森の民話茶屋通信  
Vol. 1 ～ 22 を見る



森の民話茶屋通信  
Vol. 22 ～ 31 を見る

# ふるさとの民話とふるさとの食をつないで 森の民話茶屋通信 Vol. 32 2025 年 9 月号



(オープン当初 2000 年頃の森の民話茶屋)

画・森の民話茶屋店主 後藤みづほ

大玉村おはなしの地図

— 森の民話茶屋運営委員会 —

## 新発見！ 再発見！

身近なところに転がっている魅力を見つけていこう

### 大玉村おはなしの地図 ～その1～

大玉村を、紐解いていく。

先祖が残したおはなしを辿ることは、村の暮らしや現在の大玉村のあり方の源泉を辿ること。おはなしの旅にでましょう。

えんどうがたき  
遠藤ヶ滝

#### 「遠藤盛遠伝説」

大玉村に残る伝説の中でも特に有名なおはなしです。

— はるか昔、1170年代前半頃

盛遠は想いを寄せていた自分の親友の妻、袈裟御前を人違いで殺してしまった。悲しみのあまり盛遠は俗世を捨てて仏門に入り、修行の道に救いを求める。名を文覚と改め山伏となり、全国の霊地を巡礼した。陸奥にやってきて杉田川を渡ろうとした時、川面にカーン・マーンの梵字が浮かんだのを見た文覚は深く溪谷に分け入り滝を見つけた。そしてこの滝の傍らの石室に籠り荒行を修めた。

★火渡りの行

秋季例大祭：9月13日(土)・14日(日)・15日(月)

ひやくにちしみず  
百日清水

日照りが100日続いても枯れることがないと言い伝えられている清水。水神さまがお祀りされていることから、大玉村で暮らした先祖たちが大切にしてきた場所だということがわかります。

#### ふるさとホール

年中行事やおはなし会が定期的に行われている“おはなしの拠点”の1つ。

おはなしボランティアゆめこじの皆さんとふるさとホール職員さんが、村のこども達への想いを繋ぐ場でもあります。

次回：「お月見」9月27日(土)午前10時～

出張自転車紙芝居！ (ご要望があれば自転車紙芝居出張できるそうです！)



みなさんの馴染みのある場所には、どんな物語があるのでしょうか。きっとこの地図や今まで

本になったものの中にも書かれていない物語もあるはず。そして、こうして今一度皆さんの目に心に触れることで、各々のおはなしの寿命がまたひとつ伸びて今後も楽しめることを願います。

意外と知らない おはなしのジャンルそれぞれ

“ちがひ”を知ると、1つ1つのおはなしがよりクリアにより奥深く解釈できて、楽しみが広がります。

伝説

とき・ところ・ひと  
詳しい情報がのこっている歴史的なおはなし  
例) 遠藤盛遠伝説

昔話

いつ？どこ？だれ？  
詳しい情報を特定しないおはなし。  
むかしむかしある所に…

民話

方言で語られる地域固有  
ふるさとのおはなし。  
例) 名倉山と苗松山が  
喧嘩した話

あだたらやま  
安達太良山

大玉村に豊かな自然の恵みとやすらぎを与えてくれる日本百名山の1つ。「安達太郎伝説」や万葉集の和歌、天気にもまつわる言い伝え等多くのおはなしが残っています。大玉村内そして日本国内にとっても、物理的・精神的に大きな存在であることがわかります。

ぞうめだいなりにんじや  
象目田稲荷神社

大玉村ではお稲荷様を「いなっしゃま」と呼び親しみを持って守ってきたんだとか。狐に化かされた話や狐の恩返しの話も親しまれています。

もり みんなわちゃや  
森の民話茶屋

ふるさとの食とおはなしを継承し守っている大玉村の文化の発信拠点、“おはなしの拠点”の1つ。「土と向かい合って暮らした先祖たちが残した汗と涙、笑いを煮詰めた一滴」である民話を26年間、この場所で伝えています。

- 話っこを聴くときは あってもなくても あったと思って聴けよ -

たまのい いど  
玉井の井戸

年老いた百姓夫婦が畑仕事の途中、田んぼの片隅の井戸で水を飲もうとしました。井戸の中に光る何かを見つけ何度も水を汲み上げると、とてもきれいな水晶の丸い玉が出てきたのです。玉井村の名前の由来となったおはなしです。

おおなぐらやま  
大名倉山

「名倉山と苗松山が喧嘩した話」

村の西にある名倉山と村の東にある苗松山が、どっちが背えずんねえか喧嘩したという、大玉村の人々の暮らしを見守るように向かい合っている里山のおはなしです。

ぶんなぐられ山…ぶんなぐられ山…  
なぐられ山…なぐら山…名倉山

参考文献：調査 - あだたらを知る会、編集発行 - 大玉村「安達太良の自然調査報告書」、2002年 / 大玉村商工会地域資源調査事業実行委員会「大玉村の伝説」、2003年 / 大玉村観光協会「大玉まるごと百選」、2004年 / 森の民話茶屋運営委員会「茅刈り狐」、2008年